

大会時・コロナ禍での取組

- ・2020年：東京2020大会の開催を想定し、自社BCP等を策定
ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証
社内でコンプライアンス委員会を設置

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約9割以上（通常時は約8割）
フルフレックスのため勤務時間帯は個人で異なる
- オフピーク通勤・・・既設制度を活用
- 会議等のオンライン化・・・従前より実施
- 手続きの電子化・・・既設システムを活用（顧客が非電子化の場合、最小限の輪番制で出社）
- 有給休暇の計画的な取得の促進・実施・・・従前より実施

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- リードタイムの緩和
- 取引先との配送に関する調整
 - ・顧客に対し、文書で「余裕をもった注文」を依頼
 - ・大手物流会社の探索システムを活用し、配送状況を確認

取組ポイント

- 自社の業態を活用し、自社を
実験台として取組実施
- 顧客にも電子化を提案
- 2020TDM推進プロジェクト
の所要時間・経路探索システム
を活用し、その情報を共有

取組ポイント

- 物流事業者と連携し、想定さ
れる状況を把握したうえで、
取引先への対応依頼を実施

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

 テレワーク

原則テレワーク、オプションとしてオフィス勤務も選択可能なハイブリッド形式（2割出社を標準）

 オフピーク通勤 WEBを活用した会議・研修・イベント・営業活動等の開催 会議等のオンライン化 手続きの電子化（社内・社外問わず）

物の流れ

 継続する取組は特になし

今後、同様のイベント時等の対応に役立てていく

【東京2020大会を振り返って】

- ・東京都から、東京2020大会に関する情報だけでなく、新型コロナに関する情報展開等もあったため、非常に活用できた。
- ・2020TDM推進プロジェクトは、テレビ等のメディアでも取り上げられており、情報収集の際も、常に新しく正確な情報がHPに掲載されていたため、非常にすばらしい対応だったと感心した。